

農地中間管理事業の推進に関する法律（平成 25 年法律第 101 号）第 26 条第 1 項に基づく農業者等の協議が行われたので、同項の規定により下記のとおり公表する。

令和 3 年 7 月 29 日

丹波市長 林 時彦

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
丹波市	市島町市ノ貝	令和 3 年 7 月	令和 3 年 7 月

1. 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	34.6 ha
②アンケート調査に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	24.8 ha
③地区内における 75 歳以上の農業者の耕作面積の合計	1.4 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.8 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.0 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	3.2 ha
(備考) 農地中間管理機構の活用は状況により取組みたい。	アンケート回答割合 (②/①)
	71.7 %

2. 対象地区の課題

中山間地区であり、農業離れの要因のひとつとして「草刈り作業」が挙げられる。この作業支援として「機械化支援」「作業補助金等々」の創設を希望する。
今後中心経営体が受ける意向のある耕作面積よりも、近い将来出し手となる農業者の耕作面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要。

3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

市ノ貝営農クラブは、現状水稻中心の作業受託であるが、将来会員の農地を預かり、米・野菜・栗など複合化を図り集落営農組織に発展させる予定。
高齢化と空き家増加傾向から、新規就農者の積極的受け入れを促進する。

注：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標となる所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	中心経営体	7 経営体
----	-------	-------

4. 3 の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

市ノ貝営農クラブは集落営農組合に発展させ、特定農作業受託等により耕作～販売まで取組む。
農地管理維持と安定的、効率的な農業生産のため、中心経営体に農地を集積・集約していく。